

令和6年12月18日

# 雲仙市

担当課	農林水産部 農漁村整備課
担当者	参事補 奥野志朗
電話	0957-47-7829
FAX	0957-38-3205

## 藻場再生の取り組みについて (お知らせ)

近年、全国的に藻場の減少、消失が問題となっております。原因は海水温などの環境変化や食害などの様々な要因が考えられ、橘湾においても減少傾向にあります。

雲仙市では、藻場を維持し、さらに広げ、海の環境改善や水産資源の増加を図るため、独自に藻場再生に向けた取り組みを行っており、今回、株BLUABLE（ブルアブル）と藻の繁茂実験を行うこととなりました。

つきましては、下記日程にて実験装置の設置を行いますので、取材を希望される場合は、令和6年12月20日（金）までに下記担当者へご連絡ください。

※藻場・・・海中藻類の生える場所。魚の住み家や産卵場所・成長の場所であり、海中のCO<sub>2</sub>も吸収する。

### 記

- 【日時】 令和6年12月25日（水） 14時から（1時間弱を予定）
- 【場所】 雲仙市 富津漁港（雲仙市小浜町富津2616-3付近）
- 【内容】 養殖筏を利用した藻の繁茂実験
- 【問い合わせ先】 雲仙市農林水産部農漁村整備課  
担当 奥野・松田  
TEL：0957-47-7829  
E-mail：nogyosonseibi@city.unzen.lg.jp

### 位置図



- ・当日は、漁港での概要説明の後、船での実験筏へのご案内を予定しております。
- ・天候等により中止の場合もございます。中止等の際は、担当者から直接連絡します。

# 藻場（もば）再生の取り組み

藻場（もば）・・・海中藻類の生える場所。魚の住み家や、産卵場所・成長の場所。海中のCO2も吸収する。



## 全国的に藻場が減少・消失

原因→埋め立てなどの地形的な改変、肥料や洗剤等の化学物質の流出や海水温の変化、食害など様々な要因が考えられている。



橘湾も減少傾向にある

藻がなくなり、海底が白化【磯焼け】



藻場が失われれば、魚の住み家や産卵場所・成長の場所が失われ、沿岸域の生態系が崩れてしまう。

【藻場の減少 → 水産資源（魚など）の減少 → 生態系のバランスが崩れ、環境が悪化する】

- ・橘湾は比較的、藻場が残っている状況ではあるものの、南串山町沿岸にてガンガゼ等による食害が進んでいる。
- ・水産多面的機能発揮対策事業により保全（ガンガゼ等の駆除）が行われているが、設定された一部の区域のみ。

**藻場を維持し、さらに広げ、海の環境改善・水産資源の増加を図りたい。**

取り組み 令和6年度

### ①即効的な効果を期待



食害生物の駆除作業

※ガンガゼや  
増えすぎたウニ

### ②中長期的な効果を期待

#### 養殖筏を利用した藻の繁茂実験

筏にロープを渡し、藻の自然定着・育成を行う。繁茂すれば、ロープごと海底に着底させたり、胞子を飛ばす母体として運用

